

施策評価調書(29年度実績)

施策コード - 1 - (6)

政策体系	施策名	青少年の健全育成	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	145
	政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	関係部局名	生活環境部、教育庁、警察本部		

【 . 主な取り組み】

取組				
取組項目	青少年を育てる地域・家庭づくり	豊かな心を育む体験活動や読書活動の推進	青少年や家庭への支援の充実	少年非行防止対策や支援活動の推進
取組				
取組項目	福祉犯の取締りと被害少年に対する保護活動の推進			

【 . 目標指標】

指 標	関連する取組	基準値		29年度			31年度	36年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
おおいた青少年総合相談所における自立に関する相談件数(件)		H26	1,054	1,080	1,443	133.6%	1,100	1,100						

【 . 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
達成	おおいた青少年総合相談所において、青少年自立支援センターと地域若者サポートステーション(就労支援)、児童アフターケアセンターおおいた(児童養護施設退所者の支援)の3相談・支援機関をワンストップ化し県民の利便性を図るとともに、広報活動の強化等を行った結果、相談件数が増加し、目標値を達成した。	達成

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	・関係機関と連携して、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動に取り組み、青少年を育てる地域・家庭づくりを推進するとともに、出前講座等を通じて、インターネットの安全利用への普及啓発を図った。 ・地域人材を活用した放課後等の活動に12,839人の児童・生徒が参加した。(前年比+1,025人)
	・学校や地域における図書館の読書リーダーとなる子ども司書を育成(10市町村83人)するとともに、中学生及び高校生を対象としたビブリオバトル大会(発表38人、聴衆216人)を開催することにより、子ども読書活動の活性化が図られた。
	・公立学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置することにより、これら専門スタッフを活用した各学校の教育相談体制が強化され、いじめや不登校等の課題を抱えた児童生徒、保護者への支援が図られた。 ・県教育支援センター「ポランの広場」に教育相談員や学習支援員を配置することにより、不登校児童生徒へのアウトリーチ型訪問支援を実施した。また、爽風館高校において、中学3年生と高校生の不登校あるいは不登校傾向の生徒への大学生サポーターによる補充学習教室を開催し、学習支援を行った。
	・スクールサポーターの定期的な訪問により、学校と警察との情報共有の役割を担うとともに、非行防止教室(161回)の実施、校内外パトロール(9,540回)の実施など、児童の非行防止及び安全確保に努めた。
	・被害少年への支援では、大分っ子フレンドリーサポートセンターが中心となり、被害少年の精神的負担軽減のため、学校や関係機関と連携を図り、助言と継続的な支援を行った。

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>ひきこもり家族会「大分ステップの会」からの要望書(H29.4) ・「ひきこもり家族教室」の復活や家族会を増やすなど、家族支援の充実を要望する。 ・ひきこもり当事者が集えるような場所を確保し、当事者が“声”を発信できるよう、ひきこもりの当事者が孤立しない環境づくりを要望する。</p>	<p>平成29年度第1回子ども読書活動推進連絡会議(H29.7) ・子ども司書の育成はよい取組であるため、人数を増やして学校内だけでなく、地域においても活躍の場を広げて欲しい。</p>
--	--

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・企業、大学、その他団体との連携を強化することにより、多様な放課後等活動プログラムを提供する。 ・子ども司書の育成やビブリオバトル大会など読書の楽しさを同世代に伝える活動を推進するとともに、読書活動が不足している中学生の読書活動を活性化することにより、読書習慣の定着を図る。 ・不登校やひきこもり、ニートなど社会的自立に困難を抱える青少年及びその家族の支援を強化するため、青少年自立支援センターを大分駅近くに移転し、利用者の利便性を高めるなど相談所機能の充実を図るとともに、就職や就学などの社会復帰に向けた支援の充実に取り組む。 ・学校における教育相談体制の更なる充実を図るため、スクールカウンセラーを全公立小中学校に、スクールソーシャルワーカーを全公立中学校区に配置拡充する。 ・爽風館高校における補充学習教室の対象を中学校1、2年生にまで拡大し、不登校あるいは不登校傾向の生徒の学習支援の充実を図る。 ・スクールサポーター制度の更なる充実を図り、学校内で発生するいじめや暴力事案といった諸問題への指導・助言などの解決に向けた取組を強化する。 ・少年警察ボランティア等との協働による街頭補導活動により、非行少年を早期発見し、非行の深刻化を防ぐとともに、自分の裸の写真をメールなどで送らせる「自画撮り」被害など少年のネット利用による被害防止について周知を徹底し、広報啓発活動を強化する。</p>

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	「協育」ネットワーク連携促進事業	75,594	A	継続・見直し	266
	大分県少年の船運航事業	55,214	A	継続・見直し	124
	読書だいすき大分っ子育成事業	13,191	A	継続・見直し	254
	不登校児童・生徒図書館等活用推進事業	11,418	A	継続・見直し	263
	青少年自立支援対策推進事業	31,034	A	継続・見直し	125
	いじめ・不登校等解決支援事業	164,815	A	継続・見直し	260
	不登校児童生徒支援体制整備事業	29,297	A	継続・見直し	261
	地域防犯力強化育成事業	31,218	A	継続・見直し	272